揺り籠の中で瞑想する。　勝又豊子　2018/04/04-14 steps gallery Criticism by MIYATA Tetsuya Vol.200

勝又豊子、ステップスギャラリー初個展である。勝又は今回、ギャラリー内にインスタレーション《よく見る夢―沈黙》、入口と事務所に写真の小品 5 点を展示した。ここでは、《よく見る夢―沈黙》について考察する。

壁に二枚、巨大な写真が鉄のフレームに囲まれ掛かっている。その前の床に、棺のような同じく鉄の作品が置かれている。顔に当たる部分には、エフェクトされた顔の映像が投じられている。写真でないのは、発光しているからだ。

この作品の特徴を真っ先に挙げるとすれば、それは空間性がないことである。勝又のインスタレーションは、常に空間性を強く強調し、「ここ」でなければできない作品が展開されていた。しかし、今回は本当に無造作である。

ここまで書いて気がついたのは、今回の場がステップスだからこそ無造作なインスタレーションなのではないか。つまり勝又は「ここ」でなければできない作品をやはり実現しているのではないかということである。

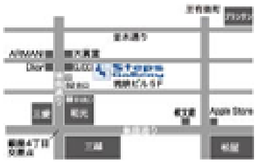
巨大な二つの「写真」に共通するのは、窓の外には海か水か皮膚があり、窓を囲う室内の壁面は蛇の皮のように有機的であり、室内には何らかの立体物と人体がある。漆黒の画面は漆のようで、触ると手がかぶれそうな印象だ。

ステップスオーナー吉岡まさみはブログで、この写真を勝又がどのように撮影したのかは明かさず、尚且つ吉岡の見解としてはこの写真が非常に絵画的であることを明かした。この見解は重要であり、更なる考察を必要とする。

私は過去に、このタイプの勝又の作品を石川町・アトリエ K の個展の際に見たことがある。ロシア・アヴァンギャルドを彷彿させる感触で勝又としては珍しく、この後、どのように展開するのかを待ち侘びていたのだった。

私は《よく見る夢―沈黙》は生きられず、死もできない状態を表わしているように感じる。しかしそれは飽くまで「状態」という現象であり、不幸というネガティブではない。だから棺ではなく揺り籠の中で、瞑想しているのだ。

Steps Gallery



〒104-0061 東京都中央区銀座 4-4-13 琉映ビル 5F Tel&Fax 03-6628-6195 http://www.stepsgallery.org/